

SRID NEWSLETTER

No.294 APRIL 国際開発研究者協会 創立者 大来佐武郎
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

災い転じて福となすの仕事人生

山口 真一

1958年 東北大学工学部卒(応用化学科)八幡製鉄グループ(八幡化学、九州石油)日揮(株)、JICA 専門家(1977-1979 ベネズエラ エネルギー・鉱山省技術顧問)、エクソン化学、千代田化工建設を経て(株)オリエンタルランドを定年退職(1997年)現在は慶応義塾大学通信教育過程学生 (法学部 政治学専修)専門分野は基礎化学工業、石油精製・販売、産業安全、環境保護(産業廃棄物処理)

また、SRIDに戻ってきました。90年度(91年3月)に退会。90年1月にエクソン化学を契約期限切れで退社。溶剤国産化プロジェクトは、委託生産工場も順調に稼動し、製品安全性データレートも関係分をほぼ完成したうでの退社でした。契約延長の話もありましたが、給料は物価場上昇分のみしかあげたくないという人がいて断りました。これは日本人スタッフの一部との文化摩擦といえるでしょう。昭和10年代生まれの日本人の感覚が、周りの若い人、欧米人に比べて古臭いと私には感じました。JICA 専門家として良くも悪しくもアメリカナイズ化されたベネズエラ人と接触してきた私はアメリカ人の行動様式をよく理解しているつもりでしたが、たとえ外資系でも海外留学ないし滞在経験のない人間は、遅れているなど強く感じました。しかし、外資系で働くなら、体力がある35才前に移るのが理想的であると思っています。

6ヶ月ほど休んで千代田化工建設の鶴見事業所で働くことになりました。これもエクソン化学と同じように職業安定所の紹介でした。この時は、心から、日本国の税金を払っていて良かったなど感じた次第です。千代田化工建設自体の直接雇用でなく、100%子会社の人材派遣業アローヒューマンリソース(株)、略称AHRを通しての派遣でした。職場はタイ石油(レエル系)拡張工事(プロジェクト)の(通称TESチーム)でした。2年前に希望退職に応募して退職した同業のN社では経験できなかったプロジェクトの現場を2年間にわたり仕事をしながら学ぶことができ、learning by doing を文字通り実行できたことは幸せな経験でした。N社では、外注員と呼ばれる私と同じ立場のタイピスト(ワープロ操作の女性、ファイリング担当)の女性とともにエージェントと呼ばれ、給料が各派遣業者を通して払われるという差のみで、正社員のチームメンバーは、私達を分け隔てなく接し、チームの行事である歓送迎会に参加するよう誘われ、私どももそれを楽しみにしました。エージェントの女性の一人にN社の正社員であったうら若い女性が居たのにはびっくりしました。赤字だったタイのLPGタンク工事プロジェクトチーム解散と同時にN社を退社したとのことで、彼女も私もN社の事で話をすることはありませんでした。私でさえ、N社退社までの3~4年間のことはとても忘れられないことばかりですから、彼女のような若い女性にはとてもつらかったらうと思います。TESチームでの2年間で、最初の6ヶ月はスケジュールコントロールで、月一回英文で当月のプロジェクト進行状況をレポートにまとめ、オーナー

(タイ石油)のコンストラクションマネージメントの担当である英国フォースターウィーラ社(千代田に5~6人が常駐)に提出し、会議で質議応答することでした。上司である千代田の正社員であるS氏(私より5才年下)と米F・W社の担当P/M(私より10才年下)も、丁寧に教えてくれ、私が気持ちよく働けるよう配慮してくれたのには涙が出るほど嬉しかった。その後、シェル方式のスペアパーツリスト(SPIR)を作成する仕事に移り、計装品を担当し、機械技術、安全技術の知識を20ぶりにリフレッシュする機会を与えられました。提出するスペアパーツリストが、コード1(修正箇所なし)で1回で英

P・Wが承認)が担当者3人の中で最高となったところで、技術本部技術企画部技術協力グループに移ることになりました。私が同業会社で海外技術協力を担当していた事を知った上での職場移動でした。チームマネージャーは、私より1才年下の神戸大・経出身のS氏で、ジェントルマンで、私と同じ国民学校に通った由でした。(私は、六甲国民学校に昭和17年に入学、神戸大震災では被害が大きく、よくテレビで六甲小学校の避難所の様子が報道されていた。)TOEICが900点近いとのうわさでしたが、誇ることは一切ない人でした。チーム員はS氏(東北大 元三菱油化)、k氏(東大 元千代田・研究)、F氏(東大 元昭和石油)いづれも旧姓大学、(昭和26~28年)卒の先輩でした。正社員は、2人、40才前半の人達でコーディネーター、T氏、K氏と私の3人が外国人技術者相手のインストラクター役を引受けていました。東大第2工学部出身のK氏は、旧姓水戸高出身で、「技術者は基礎能力を持たねばならない。」という信念の持ち主で、サウジアラビア王立工科大5年生の研修生に、化学工業基礎論を講義し、厳しい演習を課していました。T氏と私は、石油精製プロセスの講義と演習、他に私はエチレン製造、BTX製造の基礎石油化学工業について講義をしました。さらに、私は、三菱重工・広島製作所に彼等を引率したことがあります。コンプレッサー製作工程の見学にシュミレーターによるコンプレッサー運転を自ら体験するプログラムを彼等は真面目にこなしていました。夕食時には、彼等よりイスラムの戒律に従って、アルコール類(ビールを含む)を要請されました。夕食後、広島市内電車でボーリングに出かけ、心地よい汗を流しました。翌日の厳島見学で、日本の神社建築、水族館見学を若者の好奇心を持って楽しんでいました。彼らが、国費留学生としてサウジアラビア王国の指示を忠実に守り、恥をさらすまいと心掛けている姿に感銘しました。このサウジ王立工科大学の研修(9ヶ月)は当時で15年の実績がある由で、千代田化工・創立者の玉置明善先輩の慧眼に心をうたれました。カフジ油田の利権継続交渉にあたったアラビヤ石油の首脳陣の不手際は、民間の力を借りたがらない一部官僚の思い上がりからきたものでしょうか。残念至極です。また、製油所のメンテナンスに関する研修で来日したNIOC(国営イラン石油会社)の技術者のうらぶれた姿に、スタッフ一同驚きました。私を含めてイスラム革命前のNIOCの誇り高いエンジニアを知る人間は、不法滞在のイラン人同様の薄汚れた背広で、目もうつろな彼等に、強い同情の念をかん感じました。本国では、酒の飲めない彼等に精一杯のもてなしをしました。さらに30才前後の一人の機械技術者がどうしても日本に留学したいというので、東工大留学生センターから資料を取り寄せ、「NIOCの推薦状をもって在テヘラン日本国大使館へ行く」よう教えました。イスラム原理派とは、知識階級をいためつけるものだというのを改めて認識しました。このように、再び技術協力の現場に戻ることができて、職住近接の勤務を楽しんでいましたが、千代田の都合により、また新しい職場を探さねばならなくなり、オリエンタルランド(東京ディズニーランド)に高圧ガス技術者として働くことになりました。実質失業期間一ヶ月後のことでした。東京ディズニーランドでの経験については、別途お話することとします。

ところで、経済協力の基礎の一つである社会科学を学ぶべく、慶応義塾大学通信教育課程(法学部政治学専修)に学士入学したのは、1992年4月でした。晴耕雨読(仕事が忙しい時は仕事に専念、ヒマな時に勉強)で8年かかってやっと卒業論文が書けるようになり、この1月卒業登録をしました。卒論のテーマは、「韓国の地方政治」を自ら選び、2001年3月から韓国の地方大学に留学を計画し、目下準備中です。永年の夢をかなえるべく、ハングル語の勉強に励んでいます。私の祖先は、百済からの帰化人といわれているので、祖国に学びに行けるということで、張り切っています。皆様の御支援・御助言をいただきたく、再びSRIDに舞い戻った次第です。

ブータンのクマタカ

有原 元博

ハーバード大学付属アーノルド植物園長

FAO(ローマ、バンコク) UNDP(ブータン)

JICA(インドネシア、モンゴル)

筆者は、ブータン王国北西部に位置するジグメドルジ国立公園で鳥類調査を実施したので、昨今日本でも注目を集めているワシ・タカ類について多少とも興味のある人に読んでいただければ幸いです。

クマタカは、英名を **Mountain Hawk-Eagle** といい全長 70-75cm、翼開張 140-165 cm の大形のタカである。暗灰褐色で非常に大きく、黒い顔に黄色の目がらんと輝く精悍なタカであり、日本から中国南部を通してネパールブータンまで分布している。

類似種との見分け方はトビは翼開張では同じくらいだが、クマタカほど翼後縁のふくらみはなく、翼幅がより狭い。トビでは翼と体が暗褐色か暗赤褐色で体には単淡赤褐色か淡黄褐色の縦縞が目だつ。

尾は凹形か三味線のばちの形で、無帯か、細くて不明瞭な暗色の横帯が 10 本位ある。またトビの目は常に暗褐色でクマタカのオレンジ色または黄色の目とは異なるので識別は容易である。オオタカはずっと小さく、成鳥では上面は暗青灰色で、下面はより白い。眉斑と頬が白く、胸から下腹まで一面に細い横帯がある。オオタカは羽ばたきが速く、羽ばたきと滑翔を交互に繰り返しながら飛ぶことが多いので識別は比較的容易である。ノスリはクマタカほど翼の後縁にふくらみもなければ、翼幅もない。飛翔を下から見た場合、全体に淡褐色で、翼先が黒くて、翼角部に暗褐色の大きなパッチがあり、風切りと尾に不明瞭な細い横帯しかないか、尾には横帯がないので比較はできる。

クマタカが繁殖期に入るのは早く、12月下旬から営巣地の上空でつがいがディスプレイ飛翔を活発に行うようになり、1月中旬には巣作りを開始する。ディスプレイは 6 タイプの組合せになっており、輪を描くように帆翔する旋回飛翔、波状飛翔、水平翼開閉滑翔、垂直環状飛翔、雄による擬似攻撃、単独またはつがいによる反り返り飛翔などである。産卵直後から卵を抱き始め、抱卵は主に雄が行う。雄は雌に餌を運んだり、緑葉のついた枝を運んでくる。雄は巣の近くの枝に止まって周囲を警戒している。しばしば雌雄が巣の上で鳴き合いの儀式を行う。ときどき小川で羽毛で濡らしてきて卵を抱くという湿度を調節しているとしか考えられない行動をする。抱卵期間は約 50 日で、4月下旬から5月上旬に雛が誕生する。雛の餌は、ウサギの幼獣とヘビ類が多く、リス類、テン、オコジョ、モモンガ、ネズミ類、ヒミズ、モグラ、キジ、ヤマドリ、ライチョウ、カケス、ホシガラス、トラツグミ、アカゲラなどである。孵化後 50-60 日で、ほぼ全身に暗褐色の幼羽が生え自力で獲物を引きちぎれるようになる。巣立ち直前になると、親鳥はあまり餌をもってこなくなり、近くの枝に止まっていたり、上空を飛び回って、雛の巣立ちを促す。

著者の観察では 1999 年 7 月にネパールヒマラヤのランタンリルン峰への山旅でクマタカが舞っているのを確認しており、ネパールやブータンの山岳地帯に分布しているものと思われた。ブータン王国には自然がまだふんだんに残っており、観光客の入国を制限している政府の政策は自然保護の観点からも好ましいものと思われた。

ジグメドルジ国立公園管理事務所は標高 4000 メートルの高地にあり、事務所の前に温泉が沸き出しており、1日の仕事が終わると河原の露天風呂につかってリラックスして管理事務所に勤めるブータンの人達と地酒を酌み交わすという素晴らしい経験もすることができた。休暇で 7000 メートルの峰にも 3 座登頂することができて久方ぶりに山を満喫して健康を回復することができた。ブータンは私にとって忘れられない思い出の国となった。

しゃくなげ
ヒマラヤの石楠花神の座を飾る。

有原 胡

「代表幹事としてのご挨拶」

神田 道男

4月19日の総会で2000年度の代表幹事を仰せつかりました。昨年度は、NPO法案との関係で、SRIDのあり方を議論することとなり、1月の新年会兼臨時総会での議論を経て、会則の改正を行いました。SRIDの基本となっている（これも議論の結果、改めて、確認されたと思うのですが）サロンの性格を生かしつつ、情報化社会、あるいは、参加型社会への変化に対応した活動と運営を行って行こうということになりました。東西冷戦の終結から10年たち、国際社会の動向も21世紀にむけて大きく動いており、今後の変化を見通すことも難しいわけですが、皆様と一緒に考え、動していきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。（4・25記）

平成12年度総会ご報告

平成12年度総会が、4月19日、神田神保町の学士会館にて開催されました。33名の参加があり、夕食をしながら、6時半から9時まで、和やかにかつ歯切れの良い議論の飛びかう楽しい会合でした。

まず、浅沼会長から乾杯とごあいさつがありました。最近のインターネット経由の情報が満ちあふれる環境において、今こそ、仲間内で真剣な議論を深めることができるSRIDの懇談会などの集まりは有意義であるという主旨のお話でした。まったく同感したところです。

本会議では、前代表幹事の小林さんから平成11年度の活動報告があり、全員一致で内容が承認されました。又、SRIDの活動の質を保ちつつ、経費節約を工夫された平成11年度幹事ご一同の努力に、皆で拍手を送りました。

続いて、平成12年度の新代表幹事の神田さんと各担当幹事から、新年度の活動計画が説明され、軽微な表現修正はありましたが、原案通り承認されました。新年度の特徴は、インターネットを情報手段として積極的に活用しますが、一方、懇談会等のいわゆるオフ会議を活発にしたい考えです。会員のみなさん、どんどんご出席下さい。

SRIDの情報源のニューズレターにもさまざまなアイデアが寄せられました。個人の関心事のテーマによる執筆と平行して、年間の統一テーマを設定して会としての

SRIDの発言をしようと思ってきました。今後、幹事会で、テーマ等を検討しま

す。

それでは、新年度のSRIDの発展に向けて、ご協力よろしく申し上げます。
(広報担当記)

お知らせ

1. 今年度より、ニュースレターの会合案内の配布形態が変わります。
同封のアンケートを必ず提出してください。
2. 新年度になりました。年会費の納入をお願い致します。
国内会員 20,000 円、海外会員 US\$100.00 です。
振り込み先は
さくら銀行 本店営業部 普通預金 3933458
郵便振替口座 00130-5-192609